社会福祉法人武蔵野

MUSASHINO

ふれっそ

2020 No.50 ANNIVERSARY

特集

●「ふれっそ」50号記念

ひろがれ、かさなれ
むさしののわ

●地域とともに、
つながり豊かなくらしづくり
2021年度～2023年度
（令和3年度～令和5年度）中期基本計画

●どのライフステージにも
寄り添う実践
～地域社会に役立つ～

●えすぷれっそ
みんないっしょに♪　本郷 倫子
人と人のつながり、
心がつながり続けること　大内 裕子

●事業所紹介

●福々刻々
福祉社会の一翼を担う者として

地域とともに、つながり豊かなくらしづくり

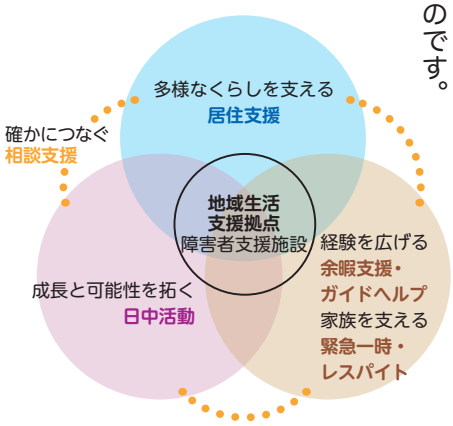
2021年度～2023年度（令和3年度～令和5年度）中期基本計画

本誌「ぷれっそ」は2008年（平成20年）8月に1号を発行してから、今号で50号となります。当法人は『地域社会に役立つ』を基本理念とし、地域のみなさまのご理解、ご協力を得ながら、様々な事業を展開してきました。今回の特集は当法人の『中期基本計画』を通して、これまでの取り組みや地域との関わりをご紹介したいと思います。

将来に続く道を、見える化する取り組み

1992年（平成4年）の法人設立以来、その時々に求められる事業だけでなく、少し先のつながり豊かに暮らす生活を思い描きながら事業を展開してきました。

将来の構想を組み立てるためには、設定した将来の生活像（目標）に向けて手順を整理する必要があります。手順を組み立てて、皆にわかるように文章化し、見える化する取り組みが『中期基本計画』と呼んでいるものです。



フィールドは地域、描く未来は8つの柱

これまで、武蔵野市という地域でのくらしづくりを大切にした事業展開をしてきました。

次期計画（2021年度～2023年度／令和3年度～令和5年度）は、左表のように8つの柱に基づいています。その中で、利用している本人や家族、関係している人々が生き生きと生活し、安定した毎日が送れるように、そして支える職員も法人の一員として、一丸となって支援に当たれるよう進めていきます。

高齢部門	❶ 日中活動支援
	❷ 居住支援
	❸ 相談支援
障害部門	❹ 日中活動支援
	❺ 居住支援
	❻ 相談支援
	❼ 就労支援
	❽ 子ども・子育て支援

策定の流れ

4つのステップで計画を策定・実行します。

ステップ1 これまでの取り組みを振り返り、現状と今後に向けて情報を共有する。

ステップ2 共有した情報を土台として、知恵を出し合いながら具体的な取り組みを協議する。

ステップ3 協議した内容を整理し、中期基本計画として素案を文章化する。

ステップ4 作成した中期基本計画を基に、法人一丸となって経営と事業展開をはかる。

次期計画（2021年度～2023年度／令和3年度～令和5年度）の特徴

- 昨年は、障害者地域生活支援ステーションわくらす武蔵野を新設しました。今年度、みどりのこども館を児童発達支援センター化しました。また、グループホームの新規開設や再編にも取り組んでいます。現在は22の拠点、44の事業にまで拡大しました。これからは拠点や事業を拡大していく路線から、より支援の質を向上させていく方向への転換期として、次のように事業の熟成に取り組みます。
- 武蔵野市で活動する社会福祉法人として、地域の福祉向上に努めます。
- 高齢・子ども・障害の分野を超えて、法人一体となって計画を作成します。
- 災害や感染症などの危機管理・事業の継続という視点も盛り込みます。
- 計画の策定過程ではなく、作成後の実施過程を大切にします。
- 「つながり豊かなくらし」の中で、地域自立生活支援へのチャレンジを具現化します。

今期の計画（2018 年度～ 2020 年度／平成 30 年～令和 2 年度）の主な取り組み

1 高齢

16時間夜勤から8時間夜勤への移行

特別養護老人ホームゆとりえでは、入居者が望む生活を実現するため、日中の職員数を増員し、一人ひとりに寄り添える時間を増やすことができました。

また、職員の残業時間が減少し、有休取得日数は増加。会議や研修・意見交換を行う時間も確保できるようになりました。

支え合う地域づくり

在宅部門では、認知症を抱える高齢者とその家族を地域で支えることを趣旨とした「カフェ♥君の名は」、健康不安などを何でも気軽に相談できる「暮らしの保健室mini」を地域の各種団体と共催しています。他に、働きづらさを抱える人に働いてもらう「ユニバーサル就労」の導入もはじめました。

2 子ども

みどりのこども館 児童発達支援センター化

児童発達支援センターは、これまでの通園・相談事業に加えて「地域の中核的な療育支援施設」の役割を担うため、支援の専門性、関係機関との適切な連携、地域課題解決などへの取り組みを進めていきます。

放課後等デイサービスパレット

市内初の共働き家庭や一人親家庭の肢体不自由児・医療的ケア児を対象とした放課後等デイサービスパレットを開始します。ハビットのサテライト事業所も、同じ桜堤ケアハウス内に開所します。

3 日中活動

生活介護：生活介護の機能強化

6つの施設で生活介護事業を行っており、それぞれの特色を活かしながら活動しています。他事業所のプログラムに参加して創作活動や販売を一緒に企画・展開するなど、足りない部分を補い合いながら、豊かな日中活動を目指しています。

就労支援：就労定着支援事業の開始

障害のある方の一般企業への就労を実現するだけでなく、就職した後も長く仕事を続けられるよう支援しています。定期的な個別面談や職場訪問、様々な相談に応じて、様々な機関と連携しながらサポートしています。

4 居住支援

わくらす武蔵野開所

2019年3月に市内初の障害者支援施設「わくらす武蔵野」が開所しました。入所施設としての機能の他に体験入所、日中活動、相談支援、短期入所など多様な事業を実施しています。

グループホーム再編・機能強化

大きな課題である入居者の高齢化、障害の重度化への対応が求められています。各関係機関との連携により、地域生活の様々なステージを支える基盤強化を目指し、今年度中にグループホームの新規開設、再編、機能強化を行います。

5 相談支援

相談支援事業所の新規開設

2018年に中途障害・身体障害のある方へ向けて「ほくと」、2019年にわくらす武蔵野のご利用者向けに「いとのわ」という２つの相談支援事業所を新たに開設しました。

相談支援従事者連絡会

法人内の相談支援等事業所の職員で作る相談支援研究会は、職員個々の相談支援スキルを高め、職員同士がお互いの専門性を活かし連携する基盤を育てることを目的とした連絡会を毎年開催しています。

どのライフステージにも寄り添う実践 ～地域社会に役立つ～

当法人は、地域における公益的な取り組みを実践してきました。私たちは、子どもから高齢者まで、さまざまなライフステージをサポートする事業を武蔵野市内で展開しています。そして各事業所が、地域の方とのつながりを深め、地域の中で多くの役割を担ってきました。今回はその取り組みの一部をご紹介します。

人期

就労支援

働くためのトレーニングやその方に合った仕事の相談をしています。履歴書の書き方、合同説明会の付き添いなど幅広い支援をしています。

一般企業へ働く方への入社後のサポート

就職後も長く働き続けられるように、仕事だけでなく生活での困りごとも含めて、ご本人の相談にのっています。長期的な雇用ができるよう企業側へもサポートしています。

小学校への学習協力

大野田小学校４年生の総合学習のプログラムで、施設見学や障害理解について学ぶ時間に協力しています。詳しくはえすぷれっそをご覧ください。

ミニ講座

地域の方に向けてさまざまな情報発信を行っています。

福祉・学校の連携

近隣の大学と連携し、ご利用者の働く現場をより良くする取り組みを行っています。

支援

地域イベントへの協力

北町5丁目町会のもちつき大会は施設の敷地内でご利用者も参加し開催されました。

老齢期

高齢者支援

「食」を通して地域を支える

・配食サービス

お一人またはご高齢の方のみの世帯へ昼食用お弁当をお届けします。定期的な見守り機能としても期待されています。

・ゆとりえキッチン

地域の方々に対し、夕食の会食型食事サービスを提供しています。予約をすればどなたでも利用できます。地域住民の交流の場として、健康維持にも役立っています。

・よりあい食堂 かよう

火曜日昼に開くから「かよう」と名付けられたコミュニティ食堂です。団地の自治会が主体となり運営、桜堤ケアハウスが後方支援をしています（武蔵野市の「いきいきサロン事業」の一つに認定されています）。

家族介護支援事業

『カフェ♥君の名は』『暮らしの保健室mini』等地域の住民が主体となり高齢者とその家族を支援する活動を共催しています。

場所の貸し出し

デイルームや会議室などを地域の様々な活動に貸し出しをしたり、乳幼児期のお子さんを連れて集まる「親子広場」を開催したり、地域に交流スペースを開放しています。

ユニバーサル就労

働きづらさを抱える地域の若者に働き手となってもらうユニバーサル就労を導入しています。リネン交換など福祉職ではなくてもできる仕事をお願いできるので、職員はそのほかの業務により時間を割くことができます。

認知症サポーターの育成

認知症の人とその家族への応援者『認知症サポーター』を養成する講座をコミュニティセンターなど地域の様々なところに出向いて開催しています。

共　通

出前授業

障害に関する知識など「こんなことを説明してほしい」という要望を受けて、地域福祉の会・コミュニティセンター・学校などに出向き、やりとりをしながら説明する場を設けています。第一中学校では生徒に向けて福祉の仕事の説明をしました。

ボランティア活動支援

ボランティア活動に意欲のある方が、法人内のさまざまな事業所で活躍されています。

地域防災への参加

武蔵野市内の地域防災に参加し、防災訓練や災害対策に協力しています。

ライフステージごとの相談支援

●どのライフステージにも寄り添う実践

乳幼児期

児童発達支援

子どもの育ちなどの相談

ミニ講座
おもちゃのぐるりんで行う子どもの育ちに関する保護者向けのミニ講座です。

きょうだい交流会
障害児等のいるきょうだいを対象にした交流会です。

施設訪問事業
保育所、幼稚園、子育て支援施設、学校などの施設スタッフへの支援。療育的視点から保育士・教員への提案を行っています。

発達基礎コース
市内の保育園等で勤務する保育士向けに、発達の支援に関する基礎的な知識を総合的に得られる場となることを目的とした連続講座です。

学齢期

特別支援学校からの実習生受け入れと説明会
将来の進路についての情報を提供し、見学・通所体験・説明会を実施しています。

学校訪問
学校へ出向いて生徒の様子を見学したり、卒業後の進路について教員に説明をしたりしています。

放課後等デイサービス パレット
肢体不自由児・医療的な配慮の必要な児が対象です。事業開始予定！

成

障害日中活動支援

給食調理
施設の厨房が、ご利用者の仕事の場となっています。

生活困窮者自立支援
地域にお住まいで、生活に困難を感じている方の働くサポートをしています。

ご利用者・家族の高齢化問題への支援

一人暮らしの方への支援

相談支援

市内の方の相談支援
生活の中での困りごとなどの一般的な相談と、サービスの紹介・利用調整を実施しています。

自立生活体験
掃除や調理などを実際に体験し、生活に必要な知識や技術を学ぶ場を提供しています。

余暇活動支援
仕事が終わった後や休日に手芸、映画鑑賞などを楽しみながら交流を深めています。

市民向け事業
障害に関する知識やかかわり方を学ぶなどの公開セミナーを年に1、2回開催しています。地域福祉の会との連携や協力も実施しています。

カフェ・レストラン運営
やさい食堂七福、さくらごはん、カフェ・ル・ブレ、パールブーケの4店舗があります。

つむぐと
三鷹駅北口にある、ギャラリー兼雑貨屋を運営しています。地域のイベントに出店したり、企業と共同したり、創作活動の場をひろげています。

地元企業からの製品受注
ご利用者の仕事として地元企業からのお菓子の箱詰めやダイレクトメール発送作業などを受注しています。

24 時間 365 日の居住

ショートステイ
日中の時間預かりや宿泊のサービスをしています。ご家族の休息や緊急時に対応します。

生活体験事業
親元から離れて生活するための生活体験です。一人暮らしを考えている方が自立して生活できるようなサポートもしています。

場所の貸し出し
施設の一室を活用して、地元の生徒さんたちが気軽に過ごせる居場所作りにも協力しています。

このように私たちはさまざまな取り組みを実施してきましたが、まだ十分ではありません。法人設立から約30年経った今、新たなニーズも生まれてきています。これからも地域に根差し、地域の方に身近に感じていただけるよう、つながりを大切に一歩一歩進んでまいります。

➡上の活動のうち、ピンクの枠のものは、地域とのつながりの深い法人独自の取り組みです。

みんないっしょに♪

武蔵野福祉作業所
本郷　倫子

「よろしくおねがいします！」子どもたちの元気な声がホールに響き渡ります。大野田小学校４年生総合学習の時間、私は、『みんないっしょに』という単元で毎年授業を担当しています。この単元の目標は、①障害のある方と地域との関わりを知ること、②校内の特別支援学級に通う子どもたちについての理解、です。私が小学校にお邪魔するようになって今年で４年目になりますが、武蔵野福祉作業所としてはずっと以前から子どもたちとの交流を続けてきました。

大野田小学校での授業の風景

ある年、先生がこんなことをおっしゃっていました。「子どもたちは、特別支援学級の友だちが自分たちと同じように大人になることがイメージできていないのではないか」。小学校の時に一緒だったあの友だちは、大人になったらどこへ行ってしまうのか？　子どもたちが、そう感じているという現実を知りました。それからは、『大人になったあの友だちは、同じ地域の中で働いている。自分の暮らしとつながっている』ということを子どもたちに知ってもらえるような授業を心がけています。

子どもたちは授業の後、今度は作業所へ体験授業にやってきます。「七福でごはん食べたことある！」「このお菓子知ってるよ！」と目にするもの一つひとつを自分の暮らしや経験と結びつけ興味を示してくれる子どもたち。ほんのひと時のこの体験が記憶のどこかに残り、『みんないっしょに』暮らせる社会の実現に向けて地域の力になっていくことを心から願って今年も授業の準備を始めています。

人と人のつながり、心がつながり続けること

ゆとりえ在宅介護・地域包括支援センター
大内　裕子

ゆとりえでは、一昨年から南町福祉の会との共催で、「カフェ♥君の名は」を奇数月の第４土曜日に開催しています。この会は、認知症の方、介護者、地域の方、専門職が自由に集い、情報交換をする場で、心やすらぐピアノの音色の流れる中、淹れたての香りのよいコーヒーを飲みながら、参加者のおしゃべりに花が咲き、笑いが湧き上がる、そんな集いなのです。

９月に再開した「カフェ♥君の名は」

「カフェ♥君の名は」の会で、地域のお店の写真を数枚見て、お店の名前当てクイズをした時のこと……お店の話から、参加されていた方が、ご自身の営まれていた駄菓子屋の話へと話が弾み、懐かしい昔にタイムスリップしてしまったかのような楽しいおしゃべりのひと時が生まれました。

今年に入り、新型コロナウイルスの感染拡大もあり、「カフェ♥君の名は」は３月からしばらくお休みをせざるをえない状況になりました。

新しい生活様式が提案され、ＺＯＯＭ会議や研修等、インターネットを用いてつながりを持ち続ける時代ですが、訪問先の高齢者からは、「家にこもって、気力や気持ちが落ちてしまった」といった声も聞こえてきています。

「カフェ♥君の名は」は、９月から、感染予防対策をしっかり取りながら、内容を少しアレンジして、集まりを再開させています。「人と人のつながり、心がつながり続けること」を大切にしながら。

●ゆとりえ

“人生のラストステージに、あなたが望む生き方を支えます。”

- 特別養護老人ホーム：日常的に介護を必要とし、ご自宅で暮らすのが難しい方が生活されています。食事・入浴・排泄など生活全般の介護サービスが受けられます。
- ショートステイ：ご自宅で生活されている方が短期間、特別養護老人ホームにお泊りできます。
- デイサービス：リハビリや趣味活動を通してはりのある生活が送れるように、通所型の介護サービスを提供しています。

●武蔵野市桜堤ケアハウス

“誰もが安心して暮らせる、支え合い温かい繋がりのある地域づくりを目指します。”

お一人での生活に不安がある方が生活されています。日々の相談や緊急時の支援が受けられます。

●在宅介護・地域包括支援センター

「身近な地域の総合窓口」として、在宅介護に関する様々な相談に応じています。福祉・医療・権利擁護などのサービスを包括的に提供していくために、武蔵野市と連携しています。

●武蔵野市児童発達支援センター みどりのこども館

- 通園部ウィズ：心身の発達が気になるお子さんの通園施設です。お子さんの「育ち」を支え、ご家族と一緒に考えて行動し、子育てを支援しています。
- 相談部ハビット：0歳～18歳までのお子さんの発達に関する心配事について、個別に相談をお受けし、ご家庭に合わせた提案や支援を行います。
- おもちゃのぐるりんを併設しています。

●ワークセンター大地

受注作業、封入封緘、公園清掃、ポスティング等の作業や刺繍や押し花を使った創作を中心に、それぞれの方のニーズに合わせた“はたらくこと”を支援します。

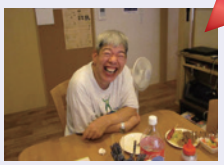
●デイセンター 山びこ

個別的な対応や配慮を必要とする知的障害のある方たちに「作業」「創作」「運動」などニーズに合わせた活動を提供するとともに、自己表現の機会や社会参加の支援を行っています。

●デイセンター ふれあい

主に身体障害のある方々を対象に、様々な活動を行っています。自分自身のからだで、表現で、なにかやりたい！そんな気持ちを大切にしています。

●居住支援ユニット リエゾン



共同生活を営みながら様々なことを経験し、自分の人生を豊かに育む生活の場（グループホーム）です。

●わくらす武蔵野

“わたしらしく武蔵野でくらす”ことを支援する為、入所施設としての機能の他に体験入所、日中活動、相談支援、短期入所など多様な事業を実施しています。

●なごみの家

障害のある方（子どもから大人まで）がご家族から離れてひと時をすごす所です。ご家族はご自分やきょうだいの事などに時間を使うことができます。

●地域生活支援 センター びーと

自分らしい毎日を、安心して楽しく過ごせるように、生活、仕事・活動、余暇など、あらゆる場面の相談やサービスの利用支援を行っています。

●武蔵野市障害者福祉センター

中途障害の方の機能訓練・社会参加を行う「生活リハビリサポートすばる」「障害者相談支援事業所ほくと」、「高次脳機能障害者相談室 ゆいっと」があります。

●武蔵野市障害者就労支援センター あいる

就職したい人にも、今仕事に就いている人にも、働くことに関する支援を市内3つの法人が協力して、総合的に行っています。

●ワークステージ りぷる

作業支援を中心に働くことを通した自己実現を目指します。積極的に機械を導入し、効率的な環境の中で新たな可能性を高めていきます。

●ワークセンター けやき

封入作業、製パン作業、カフェ、レストラン、印刷・デザイン作業など、専門職と共に幅広い仕事を行い、働く力を育んでいきます。

●武蔵野福祉作業所

菓子箱折や詰め合わせ、封入、給食調理、レストランなど多様な作業があります。働きながら成長し、自分らしく生きることを大切にしています。

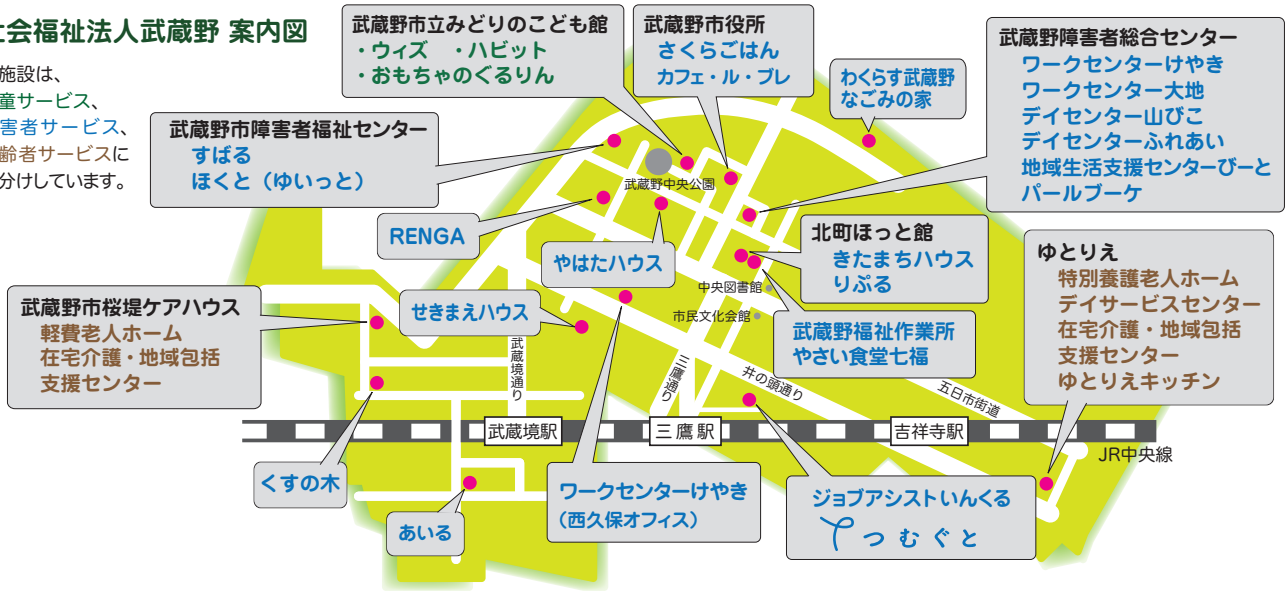
●ジョブアシストいんくる

障害のある方で企業就労を目指す方を対象に就職を支援します。就職後は長く働き続けられるよう定着支援をします。

ぷれっそ
2020 第50号
社会福祉法人武蔵野 広報紙ぷれっそ第50号 【発行日】令和2年11月1日 【発行者】安藤真洋 〒180-0001 武蔵野市吉祥寺北町4-11-16 TEL 0422-54-7666 FAX 0422-54-7599
https://fuku-musashino.or.jp/ 【編集】（福）武蔵野 広報委員会 ぷれっそ編集部 【編集協力・制作】七七舎
※Presso（ぷれっそ）はイタリア語で「すぐそばに」という意味です。表紙の題字はご利用者が書いたものです ※音訳テイジー版をご希望の方は事務局（TEL 0422-54-7666）まで

社会福祉法人武蔵野 案内図

各施設は、
児童サービス、
障害者サービス、
高齢者サービスに
色分けしています。



福々刻々

福祉社会の一翼を担う者として

私どもは2009年（平成21年）から3年ごとに中期基本計画を策定しております。市の計画と密接につながること、また社会福祉法人としてご利用者のニーズに応えることという視点で検討し、社会状況や制度環境を踏まえて策定するものです。

市の第五期長期計画に「市の施策も、かつての新規・拡大の時代を経て、新しいニーズへの対応を踏まえたリデザイン・リニューアルの段階に入った」という一節がありました。私どももこうした認識は必要と考え、そのうえで地域の福祉向上のためにどう行動すべきか、ただいま次の3年間の取り組みを計画しているところです。

さて、広報紙「ぷれっそ」は私どもの活動を市民のみなさまにお伝えすること、そしてご意見や感想をいただきながら、法人の事業のより良い発展と相互の理解が深まることを願って発行しております。その第1号は2008年（平成20年）8月1日発行でした。この年、国は新しい社会保障の在り方をめぐる議論を始めています。そして誰もが安心して利用できる社会保障制度へと舵を切るべく「社会保障と税の一体改革大綱」が定められ、現在に至っています。

このような制度環境の変化の中、私どもは基本理念に沿って、地域における公益性を念頭においた取り組みを（微力ではありますが）進めてきました。福祉社会とは、社会の構成員が福祉に対して理解と関心を持っていること、そして社会の様々な主体が福祉サービスを提供しているという2つの側面があると言います。武蔵野では行政の施策に加えて地域の方々の活発な動きがあります。その福祉社会がいっそう発展できるよう、私どもも福祉の担い手として引き続き活動を展開していきたいと思います。

（理事長　安藤　真洋）

編集後記　今回は50号ということで記念号とさせていただきました。皆さまからのご意見やご感想、お待ちしております。（は）